



## Impact of communicative and critical health literacy on understanding of diabetes care and self-efficacy in diabetes management: a cross-sectional study of primary care in Japan

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 浜松医科大学 公開日: 2016-01-26 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 井上, 真智子 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10271/2918">http://hdl.handle.net/10271/2918</a>

## 論文審査の結果の要旨

ヘルスリテラシー(HL)は、健康の維持・増進のために情報を入手し、理解し、活用するための個人のモチベーションと能力を決定する認知的かつ社会的スキルと定義される。HLには、機能的HL(健康・医療情報に関する基本的読み書き能力)、伝達的HL(同情報を入手、伝達、適用する能力)、批判的HL(同情報を批判的に吟味する能力)がある。今回の研究では、日本のプライマリ・ケアにおける糖尿病診療で、伝達的HL、批判的HLが糖尿病ケアへの理解、自己効力感に及ぼす影響と、それらに対する患者医師コミュニケーションの影響を検討した。

地域の診療所に1年間以上定期通院する20～75歳の2型糖尿病患者326名を対象にした質問紙を用いた横断研究である。診療所は12都道府県の17箇所である。本研究は、東京ほくと医療生活協同組合の倫理委員会の承認を受けている。

HL尺度は、妥当性、信頼性の検証された機能的HLの5項目、伝達的HLの5項目、批判的HLの4項目を、患者医師コミュニケーションの評価には「医師の説明のわかりやすさ」を7段階で評価した項目を用いた。アウトカム指標は、糖尿病へのケア理解および糖尿病管理への自己効力感の尺度を用いた。HL、アウトカムを、それぞれ説明変数、従属変数とした重回帰分析では、伝達的HL、批判的HLのいずれもアウトカムと有意な関連があり、患者背景因子を調整した解析、患者医師コミュニケーションの要因を加えた解析でも大きな変化はみられなかった。機能的HLはいずれの解析においても従属変数と関連はみられなかった。

審査委員会では、プライマリ・ケアにおいて、伝達的HLおよび批判的HLが糖尿病ケアの理解および自己効力感と関連し、また、患者医師コミュニケーションとは独立して関連していることをはじめて明らかにした点を高く評価した。

以上により、本論文は博士(医学)の学位の授与にふさわしいと審査員全員一致で評価した。

論文審査担当者

主査 宮嶋 裕明

副査 渡邊 裕司

副査 佐々木 茂和